

平成 30 年度第 3 回小牧市地域包括支援センター運営協議会 議事録

日 時	平成 31 年 2 月 14 日（木） 13 時 30 分～14 時 45 分
場 所	小牧市役所 本庁舎 4 階 404 会議室
出 席 者	【委員】（敬称略） 岩満 賢次 岡山県立大学准教授 前川 泰宏 一般社団法人 小牧市医師会代表 高木 康司 小牧市歯科医師会代表 吉元 寛子 小牧市介護支援専門員連絡協議会代表 田中 秀治 一般社団法人 愛知県社会福祉士会代表 野口 弘美 小牧市保健センター 沖本 榮作 小牧市民生・児童委員連絡協議会代表 坂東 抄子 小牧市介護相談員代表 【事務局】 山田 祥之 市長公室地域協働担当部長 兼 健康福祉部 地域福祉担当部長 江口 幸全 健康福祉部 地域包括ケア推進課長 山本 格史 健康福祉部 長寿・障がい福祉課長 伊藤 京子 健康福祉部 介護保険課長 倉知 佐百合 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係長 永田 智奈未 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係主事 三嶋 直美 南部地域包括支援センターケアタウン小牧管理者 尾崎 雅代 小牧地域包括支援センターふれあい管理者 小林 永尚 味岡地域包括支援センター岩崎あいの郷管理者 瀬口 幸恵 篠岡地域包括支援センター小牧苑管理者 金田 泰丈 北里地域包括支援センターゆうあい管理者
傍 聴 者	0 名
配付資料	次第 資料 1 平成 31 年度小牧市地域包括支援センター運営方針(案) 資料 2 平成 31 年度小牧市地域包括支援センター事業計画書(案) 資料 3 介護予防プラン作成委託業者の承認案件に係る持ち回り審議結果について

主な内容

1. 開会 （1）あいさつ 2. 議事 （1）平成 31 年度小牧市地域包括支援センター運営方針(案)について ・事務局より、概要を説明。 ・案に対して異議なし。 ・質疑、主な意見は以下のとおり。 ○野口委員 ・Ⅰの理念にある「高齢者を始めとした地域住民にとって」とあるが、どのような方を対象としているのか。 ○事務局

- ・基本的には、高齢者であるが、中には多世代と同居している方や障がいを持つ方もおり、暮らしの課題は多岐に渡る。さまざまな課題を包括的に支援していくということから、「高齢者を始めとした」という表現をしている。

○田中委員

- ・概ねの流れは国の方針と同じであり、細かな部分は、事業計画に含まれている。
- ・今回、大きく変わった点の中で、自立支援型の個別地域ケア会議があるがどのような流れで展開をしていくのか。

○事務局

- ・来年度から、市が主催の自立支援型のケースカンファレンスを開催する。
- ・包括にも参加してもらい、自立に向けた支援についての会議を進めていきたいと考えている。
- ・翌年度ぐらいには、重度化防止型も開始する予定である。
- ・豊明市を参考にオープンカンファレンス形式で、専門職の方など、誰でも参加できる形とし、幅広い意見をもらう中で、必要なサービスなどの施策提言等に繋げていきたいと考えている。

○吉元委員

- ・方針9 認知症総合支援事業の実施方針に5項目あるが、認知症カフェなど、それぞれの活動がどの項目に当てはまるのか。

○事務局

- ・1つ目の項目、「認知症に関する知識の普及啓発」は、認知症ケアパス、認知症フォーラムを通した啓発活動が該当する。
- ・2つ目の項目、「認知症初期集中支援チームを始めとした関係機関との情報共有及び連携」は、現在8ケースの実績があり、包括と相談等を行いながらチームとして支援にあたっている。
- ・3つ目の項目「認知症予防活動の推進」は、認知症予防ゲームを用いた、認知症予防を行うためのリーダー養成を行っている。認知症予防ゲームリーダーがサロン等で認知症予防の動きを広めていけるような取り組みに努めている。
- ・4つ目の項目「認知症の人の介護者への支援」は、認知症カフェの立ち上げや運営に関することが該当する。
- ・5つ目「認知症高齢者等の見守り支援」は、味岡圏域で実施している靴等にステッカーを貼り、行方不明になった高齢者の早期発見に繋げるためのツールとしてのステッカー事業について、来年度からは、市全域で本格実施できるように準備している段階である。

○田中委員

- ・市の全体的な運営方針に基づいて、各包括が事業計画を立てると思うが、2点ほどお願いしたいことがある。
- ・1点目、包括として介護予防や認知症予防について、活動意欲のある住民との接点を持ちながら活動に入っていくと思うが、他にも地域支え合い推進員やリハビリテーション連絡会、ケアマネジャーといった、専門職との連携をどのように取っていくかという点について、具体的に踏み込んで事業計画を立てて欲しい。
- ・2点目、現在、ケアマネ連絡協議会で医療と介護の連携について、アンケート調査を行っている。ケアマネジャーが医療職に対して、担当者会議の出席依頼や入退院の連携など、基礎的な部分も踏まえてなかなか連携がとれていないような状況がある。そういった基礎的なところも含め、包括が医療面とのパイプとしてどのように関わるの

かという点にも着目して、事業計画を立てて欲しいと思う。

○高木委員

- ・ 8 の介護予防推進事業の実施方針について、「介護予防事業が必要な人の把握」とあるが、具体的には、どのような方法で必要な人を把握しているのか。

○事務局

- ・ 現在は、「お元気チェックリスト」でいくつかの項目に回答してもらい、その中から、ある程度、介護予防事業が必要な人を把握しているという状況である。実態として、しっかりと把握できていないところがあり、色々と手法を考えていかなくてはならない状況にある。

○高木委員

- ・ 把握できたとしても、介護予防に繋げていくことが難しいと思うが、効果的なことを行っているところはないか。

○事務局

- ・ 地域の集まりの場で、専門職に関わってもらいながら予防活動を行っていることが 1 つあげられる。
- ・ 介護予防に繋げるため、こういった受け皿を作っていくかが課題であると考えている。

○高木委員

- ・ 市内のサロンに参加している高齢者の割合は、概ねどれくらいか。

○事務局

- ・ 市内のサロンは、現在 73 か所あり、参加している高齢者の割合は、高齢者全体の約 7 % と思われる。

○高木委員

- ・ 介護予防は、ある程度、健康からプレフレイルの間のあたりの方に来てもらい、講話など、様々な助言ができるととても良いと思うが、元気な方は自分のこととしてなかなか意識しないことが非常に多いと思う。
- ・ 地域の方、若しくは自分たちである程度のフレイル評価を継続的にを行い、状態が良くなった、悪くなったというようなことを、自分たちのこととして行っていけるような形が非常に望ましいと思う。
- ・ 自身がサロンで講話等を行う中で、その後のことが気になる。半年ごとなど、もう少し継続的に同じようなことを行う仕組みを作っていけるとよいと思う。

○事務局

- ・ サロンは、集いの場として、広がってきた。次の段階で、提案のあったような活動につなげていけるよう努めていきたい。
- ・ また、予防事業は、保健センターの健康づくりや地域包括支援センター独自のものなど、様々な取り組みがあるが、継続性のあるものはあまりないと思われるので、今後意識していきたいと思う。

(2) 平成 31 年度小牧市地域包括支援センター事業計画書(案)について

- ・ 事務局より、概要を説明。
- ・ 案に対して異議なし。
- ・ 質疑、主な意見は以下のとおり。

○野口委員

- ・ 在宅医療・介護連携推進事業の現在の進捗については、どのような状況か。

- ・電子@連絡帳「こまきつながるくん連絡帳」の利用状況や実態はどうなっているのか。

○事務局

- ・在宅医療や介護が必要な方に対する支援というところで、介護保険事業に「在宅医療・介護連携推進事業」が盛り込まれた。包括とも連携し推進している状況である。
- ・1人の利用者に対して、様々な職種の方が関わり、一つのチームとして連携できているかが課題であると感じている。
- ・また、在宅医療・介護連携サポートセンターを中心に、多職種の方に向けた勉強会や研修会を通じて、できるだけ風通しのよい環境づくりに努めている。
- ・多職種の連携を更に図っていくために、電子@連絡帳の「こまきつながるくん連絡帳」を整備した。こまきつながるくん連絡帳を活用して円滑な利用者の情報共有に繋げている。また、様々な連絡会、課題の情報共有、事業ではサロンを巡回した際の情報共有にも活用していくようにしている。

○野口委員

- ・「こまきつながるくん連絡帳」の運営はどこが行っているのか。

○事務局

- ・基盤整備を行ったのは小牧市である。
- ・医療機関や介護保険事業所等に登録を呼びかけており、登録数は、360事業所の内3分の1程度である。
- ・いずれは、近隣市町村とも電子@連絡帳を通して医療・介護連携ができる環境を徐々に整えていきたいと考えている。

○高木委員

- ・事業計画や職員配置等々、実際には包括が作成すると思うが、内容についてどのように受け止めているのか感想が聞きたい。

○事務局(南部包括)

- ・介護予防支援の委託率について、昨年度と今年度と80%を委託にし、それ以外の部分で地域支援事業に力を入れていくという方針で取り組んできた。
- ・今回の方針で介護予防支援の委託率について、60%未満となると、介護予防支援の業務がとて増えることになる。しかし、人員を増やそうとしても、人が集まらない状況である。そのような状況で、業務が遂行できるかという不安もある中で、計画倒れにならないようにしなくてはならないと思う。
- ・また、県の研修に出た際に、更に新しい事業をしなければならない状況では、縮小する部分も必要であるというような話を聞いた。市の方針に沿ってしっかりやるべきところと、絞っていくべきところを整理しなくては、過大な業務になると感じた。

○事務局(小牧包括)

- ・前年度の事業計画と比べても、かなり項目が細かくなっており、具体的に活動内容が計画できるように項目として設定されていると感じた。
- ・地域ケア会議や介護支援専門員へのサポート、認知症に関する項目は、特に細かく設定されていると感じる。
- ・委託率について、60%未満という数字は、小牧包括としても、現実的にかなり厳しい状況であるというのが率直な意見である。また、アウトリーチにも力を入れていくようにといったところが方針に挙がっているが、両立といったところのバランスをどのように図っていくかといったところで、来年度に調整する時間を要したいと思う。

○事務局(味岡包括)

- ・自立支援を目標とするケアプランを作成することに関して、自立支援という捉え方を

包括の中でもしっかり考えた上で、利用者の自立につながるようなプランを作成していく必要があると切に感じる。

- ・また、介護予防や認知症予防など、継続性を考えていく中で、どうしても一度だけ講座をして終わってしまっているケースが正直多いと感じた。継続的に、住民主体で活動していけるような取り組みを考えていかなければと思う。

○事務局(篠岡包括)

- ・前回、指摘いただいた、様々な実績件数のカウント方法や個別ケア会議に関し、個別支援を具体的な形にしていくようにという点で様々な検討をしている。
- ・篠岡地区の特色として、急激な高齢化と人口減少が一気に高まる中で、支え合いということで、「ささえあい篠岡協働実践会議」というものを、個別のケア会議の上層会議のような感じで組織している。
- ・介護と医療の連携については、「こまきつながるくん連絡帳」やプランの自立支援型ということを意識していきたいと思う。
- ・委託率については、直プランを目指してはいるが、6割未満という数字は厳しいと感じる。
- ・事業の分析を行い、何がよくないのか、そして、どういうところがずれてきているのかを包括の中で共有していきながら考え事業を進めたいと思う。

○事務局(北里包括)

- ・連携というところに具体的に方針が示されており、包括内で方針に沿って職員と共有しながら作成していこうと思う。
- ・人員は限られているので、やるべきこととのバランスを見つつ、地域の状況に合わせて対応していきたいと思う。
- ・北里地区は、農村部と高齢化が進む住宅地が混在しているところであり、住宅地の部分は、意識が高く、様々な活動が進みつつあるが、農村部は、逆に老人会といった活動が縮小するような傾向があるため、地域診断をしっかりと行いながら計画に反映させ予防活動の支援をしていきたいと思う。
- ・委託率については、60%未満にあと少しで届くというところである。バランスを見ながら割り振って担当をしていくようにしたいと思う。

○高木委員

- ・地域包括支援センターが活動を開始した直後と比べたら、事業の内容は確実に増えている。今後、更に事業が増えていくことも予想されるような中、高齢者だけでなく、住民全体を支援するという傾向も計画の中に入ってくるような感じである。人員も確保でき、十分機能していけるのであれば、好ましいとは思いますが、限られた人数だけで一生懸命やっていた姿は、頭が下がる思いである。
- ・理念や方針が細かくされると、地域の特色がなくなってしまうので、地域での独自な部分にも対応していただきたい。市も地域包括支援センターに協力、また、財政的な支援を求められると思う。
- ・スクラップ・アンド・ビルドという話もあったが、やはり、それも必要だと思う。実績の数字が、上がらないということがあったとしても、やむを得ないというぐらいの長い目で見守ることも必要なことだと思う。

○事務局

- ・計画には、スクラップ・アンド・ビルドの要素も含まれるため、その点も含め包括から提出された来年度の事業計画を検証していければと考えている。
- ・委託率は、実績からすると、かなり厳しい数字を示したものではあるが、実情は市も

把握している。包括とも調整しながら進めていく。

○野口委員

- ・様々なところで、住民主体というようなことや地区診断、また、予防活動というような話があった。保健センターでも一緒に地区診断をして、どのような人達が何を求めているのかなど、目指していくところ是一緒だと思う。保健センターにも地区担当の保健師がいるので、是非、一緒に協力し合いながら話をして進めていきたいと思っている。

○事務局

- ・是非、お願いしたい。

○岩満会長

- ・法律が変わり、30 年度にも一度変わっている。統廃合もあり、様々な仕事が増えてきていると思う。様々な工夫をしていきながら、進めていただけたらと思う。

3. 報告

(1) 介護予防プラン作成委託業者の承認案件に係る持ち回り審議結果について

- ・事務局より報告。
- ・質疑、意見等なし。

4. 閉会